

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語(英語) 】

書名		NEW HORIZON (東京書籍)
項目		
教育基本法、学校教育法の下での学習指導要領における教科の目標とのかわり		<p>○Unit (文法と語彙の習得) → Daily Scene (コミュニケーション活動による活用) → Presentation (自己表現活動による発信) の3部構成によって、4技能を総合的に育成できる学習の流れになっている。</p> <p>○場面別コミュニケーション活動を通して Unit で学んだ言語材料をスキット感覚で学習できる流れになっている。言語材料の定着では運用度の高いものを用いている。</p> <p>○「異文化や国際社会」「日本の伝統・文化を見つめなおす」「自然科学や環境」「物語で読みの楽しさを味わう」「今日の課題(人権、平和、共生、防災、安全など)」など、人、文化、国をつなぐ題材がスパイラルに各学年に配置されている。</p>
特 内 容		<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○練習問題は原則として既習語で作成し、活動を膨らませるのに必要な語句や表現は「Tool Box」などで題材語として補充されている。</p> <p>練習問題のバリエーションが豊かで、「Unit」の言語材料がくり返し取り扱われるため、全体としてコミュニケーション能力の基礎を確実に身につけられる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○グラフや地図などを読み取る Unit もあり、文字だけでなく、様々な表現形態を用いて思考力を養う形がとられている。また、読みの指導においても、読後に感想や賛否・理由を示せるようになっており、書かれた内容や考え方をとらえるためのヒントも用意されている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○応用的な課題には Tool Box、Bonus Word Box、Word Room など補充語彙・表現が示され、補充も充実している。各学年に「学び方コーナー」があり、「辞書の使い方」「文の読み方」「意見の述べ方」「文章のまとめ方」などが示されており、自学自習に役立つポイントが解説されている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○各構成には、技能別の練習問題が配され、4技能がそれぞれ重点化されながら適宜統合されており、これらをくり返し学習することによって、コミュニケーション能力、基礎的な知識・技能を確実に定着できる。</p> <p>○Daily Scene では「電話の会話」と「道案内」が3学年とも載せられており、発達段階に合わせ、ゆるやかに難易度があげられている。</p>
	資 料	<p>○巻末の Bonus Word Box では、対で覚えたほうがわかりやすい形容詞(2年)などがあり、感情表現や性格も載せられ工夫がされている。前置詞の説明が豊富である。</p> <p>○題材は英語圏だけでなく、非英語圏、日本と広く取り上げられている。</p> <p>○文法指導が中心のところは本文量が少なく、「読む」活動が中心のところは多い、という配分になっている。</p> <p>○ペアワークだけでなく、グループで取り組むコミュニケーション活動も用意され、学習形態の工夫がみられる。</p>
	表記・表現	<p>○Unit は、見開き構成で、左ページに新出語句、本文、右ページに基本文、基本練習、技能別の練習問題という配置に統一されている。</p> <p>○1年ではブロック体、2年からは、活字体が使われている。また、手紙文では手書き字体が使用されている。</p> <p>○1年の Unit 5以降で文字が小さくなり、字間が狭まっている。</p>
総 括		<p>○Unit で学んだことを Daily Scene で実際に使って Presentation で発信につなげる構成になっている。Presentation では1年3文、2年4文、3年5文以上でまとめるようになっており、学習のまとめとして「書く」課題で終えられ、学習の成果をノート指導で確認できる。また、各構成の目標が明示され、Can-Do にも対応した学習の流れになっている。</p>

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語(英語) 】

書名 項目	SUNSHINE (開隆堂)
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領に おける教科の目 標とのかかわり	<p>○本文ページの学習を通して、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合的に扱い、コミュニケーション能力の基礎を養うように配慮されている。</p> <p>○4技能のコミュニケーション能力を総合的に育成するために、年間3回のまとめの活動(My Project)や巻末に「できるようになったこと」リストが配置され、到達目標を示して日常の学習に取り組めるようにしている。</p> <p>○英米だけでなく、広く世界各地に目を向け、国際理解を深めるように配慮されている。また、日本の伝統文化を数多く取り上げ、日本人であることの自覚と誇りをもつとともに、英語で発信できる基礎的な能力を養えるようになっている。</p>
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫></p> <p>○Program、Power-up、My Projectの3部で構成されている。Programの各セクションでは、「Basic Dialog」で基本的な対話を通して、習得すべき最低限の到達目標を明確にしている。そして、「Listen」「Speak」「Try」で基本練習を行う。本文の学習の後、「Write」で自己表現を行い、4技能を習得できる構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫></p> <p>○各Programで基本的文法事項について学習し、さらに各ProgramのまとめとしてPower-upやMy Projectが配置され、発展的・統合的な言語活動を行う構成になっている。また、巻末には「Basic Dialogのまとめ」や「クイックQ&A」があり、自己学習やペアワークを通じて表現力を高めるようになっている。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫></p> <p>○新出語彙の意味や発音の習得を自らチェックできるようにマークが設けられている。音読の自己チェック欄も各セクションに設けられ、自己学習を促している。巻末に「できるようになったリスト」が設けられ、3年間の到達目標が示されると同時に学期ごとに自己の達成状況を確認できるようになっている。また、1年「辞書を引いてみよう」、2年「辞書を読んでみよう」、3年「辞書を使いこなそう」と、発達段階に即した辞書の使い方が示されている。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫></p> <p>○Listening、Speaking、Reading、Writingそれぞれの技能に特化したページ「Power-up」を配置し、「買い物」「道案内」「電話」等の実際的な英語の使用場面が設定されている。また、3年間で9つの目標を示したMy Projectでは、自分のことから我が国のことへと話題を広げていく中で、4技能を高めながらコミュニケーション能力が身につけられるように工夫されている。</p>
	<p>資 料</p> <p>○本文関連写真資料が数多く掲載されている。本文は、セクションが見開きで展開されており、PPP(Presentation, Practice, Production)の順に教材が配置され、何を学び、何ができるようになるかを分かるようになっている。</p> <p>○各学年とも表現活動の資料として、教科名・部活動名・職業名などが紹介されている。また、1年では切り離して使用できる「アクションカード」、2・3年ではペア活動のための「クイックQ&A」がゲーム形式で掲載されている。</p>
	<p>表記・表現</p> <p>○1年のProgram 8まではブロック体、Program 9以降は本文が活字体で表記されている。また、手紙文は手書き字体が使用され、欄外に発音と綴りの関係や英語音声の特徴を示し、音声へのアドバイスがされている。</p> <p>○1年 Program 5以降で文字が小さくなり、2年でさらに小さくなる。Extensive Reading等では細かい文字となり、文字間も狭まり、情報量が増えている。</p>
総 括	<p>○構成は、基礎を学ぶProgramと「聞く」「話す」「読む」「書く」等のコミュニケーション活動を中心としたPower-up、それらを統合的・発展的に学習し、自己表現するMy Projectからなっている。題材は今日的な話題を扱っている。2・3年では、復習や応用のための読み物教材が付いている。ペア学習やグループ活動が多く取り入れられ、協働学習をねらいとした構成が見られる。</p>

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語(英語) 】

書名 項目	TOTAL ENGLISH (学校図書)
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領に おける教科の目 標とのかかわり	○コミュニケーション能力の基礎を養うために、「聞く」「話す」「読む」「書く」活動を偏ることなく設け、4技能の総合的な育成を図っている。 ○コミュニケーションを円滑に進めるために、知っておくためになる情報や、言語の使用場面で特有の表現が使われる場面を提示している。また、初期の段階から日常の会話に近いコミュニケーションができるよう、一般動詞から導入している。 ○国際語としての英語という観点から、題材を英語文化圏だけでなく、幅広い地域から取り上げている。また、言語面だけでなく、背景にある文化・社会・生活面にも視点を広げ、英語を媒介として日本とは異なる言語・文化・社会に対する理解や共感を深めることができる題材となっている。
特 内 容	<基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫> ○各レッスンは、本文、内容理解のQ、New Words、Target Sentence、基礎的、基本的な知識・技能を確実に習得させるための活動であるActivitiesから成る。また、学習した言語材料を、すぐに復習、確認できるReviewがあり、前のSectionで学習した言語材料を、その後のSectionやコーナーに多く盛り込み、繰り返し使用できるよう工夫している。文法事項のまとめCheck It Outでは、色分けして文構造をわかりやすくしている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○既習事項を活用して作文や手紙を書いたり、スピーチやインタビューを行うProjectを設定して、Chapterで習得した目標文や重要表現を活用して、書いたり話したりすることをねらいとする表現活動としている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○Chapterの扉には、学ぶ内容とその結果どんなことができるようになるかを明示し、さらに生徒が学習の見通しを立てたり、学習を振り返ったりすることができるよう工夫されている。職場体験学習や修学旅行、部活動、マンガなど、中学生が実体験をもとに考えやすい題材を取り上げている。また、機内放送、レストランの注文、買い物などの場面や、ウェブサイト、電話、手紙、日記、メールなどの手段に応じた英文を紹介して、生徒の興味や意欲を喚起する内容となっている。 <外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○ActivitiesやReviewでは、4技能のどの技能を中心とした活動かを分かりやすく示している。Word Treeでは、活動を通して単語を何度も使用することができる工夫がされ、Tipsでは、場面に応じた表現や、コミュニケーションを円滑に進める情報が紹介されている。
色 資 料	○More Wordsとして食べ物、ペット、部活動、教科、職業、感情等の話題に応じた語彙を紹介し、自己表現に生かせるようになっている。1年生では外国語活動と関連した「世界のあいさつ」が載っている。また、異文化理解のための資料や自分の意見や気持ちを伝えるための表現も紹介されている。実際に点字のアルファベットが表示されていて、生徒が触れて実感できるよう工夫されている。
表 記 ・ 表 現	○1年では、本文はブロック体を、2年からは活字体を用いている。手紙やスピーチ原稿、日記、新聞、レポートは手書き字体で、Eメールも字体が変わる。New Wordsのアクセントは1年の最初から印が付いている。発音記号については、1年ではフォニックスに関するものは音と文字を結びつけるヒントとして扱っている。 ([l] lemon, English, like) ○1年Lesson 3Aまでは吹き出しによる表記、Lesson 5からは、文字が小さくなる。2年でさらに文字が小さくなり、行間も狭くなる。
総 括	○各学年とも、Pre-lessonと4つのChapter、付録で構成されている。内容としては、1年では自分自身と他者に関する事柄を中心に、2、3年では日本と外国との文化の違い、環境問題や世界遺産、世界の偉人をテーマにしている。言葉を通して自分を見つめ、世界を広げることをめざしている。

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語 (英語) 】

項目	書名 NEW CROWN (三省堂)
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領に おける教科の目 標とのかかわり	<p>○実践的なコミュニケーション活動が段階を踏んで配列されており、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域を段階的に学習できるようになっている。</p> <p>○身近な場面設定が多く取り入れられており、頻用される表現や基礎・基本の習得と、積極的なコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するようになっている。</p> <p>○自分達の考えや文化を発信できる力を備えた「地球市民」の資質を培う内容のもとに、「ことば」「文化」「伝統文化」「人種」「社会環境」「自然環境」「防災」などの題材を配置し、言語や文化に対する興味や理解が深まるように構成されている。</p>
特 色	<p><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫> ○各単元を「とびら」「GET」「USE」「文法のまとめ」の4つのパートに分け、学びのプロセスを構成的に配置している。単元で学んだ言語材料や言語活動を生かして展開する統一的活動として「Project」を各学年3カ所配置し、知識・技能の定着を図る工夫がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○モデル文の作成プロセスや文章構造を分析して、思考力・判断力の育成を図った上で、グループやクラスで自作できるような表現力育成のためのスモールステップが多く取り入れられ、構成に工夫がみられる。</p> <p><主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「とびら」で学ぶことが明確に表示されているので、振り返っての学習確認ができる。「For Self-study」で、英和・和英辞書の活用、教科書外での英語学習法など自主学習のヒントを提供し、自立的な学習者の育成を支援している。「What Can I Do?」リストを掲載し、該当学年でできるようになって欲しいことのリストを示し、生徒が自分の学びをセルフチェックし主体的に取り組むための配慮がある。</p> <p><外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○言語活動の充実と効果的な表現を促す工夫として、「Tips for Speaking」「Tips for Communication」「Tips for Writing」を設けている。発表・会話の仕方・書き方のヒントを提供し、4技能の総合的な育成ができるように配慮している。また、技能や役割を特化した単元として、独立したサブLessonを配置し、目的をもったコミュニケーションがとれるような活動ができるような工夫がみられる。</p>
資 料	<p>○生徒の豊かな表現を引き出し、場面にあわせて言語活動で活用できる語句リストとして「いろいろな単語」、会話をつなげるための表現リストとして「会話表現」を付録として配置している。</p> <p>○本文の内容理解を助ける写真やイラストの視覚教材が配置され、国際理解としての資料性が高い。また巻末には、プラスの読み物として「Further Reading」、イラストで文法をまとめた「絵で分かる文法のしくみ」を掲載している。</p>
表 記 ・ 表 現	<p>○学年に合わせた情報量や内容により、フォントや配列・行間に変化がみられる。</p> <p>○本文は全学年を通してブロック体、スピーチは手書き字体、手紙は活字体が使われている。「GET」は基本的にブロック体で表記され、「SOUND」には英語らしい音の繋がりやフォニクスに気付かせるコーナーを設けている。</p>
総 括	<p>○「とびら」で学習の見通しを立て、「GET」で基礎的な知識・技能の習得、「USE」で基礎的な知識・技能の活用、「文法のまとめ」で言語材料の振り返りを行い、段階的に英語を身につけるための学びのプロセスが構成的に配置されている。4技能の活動を統合するものとして「Project」があり、自分の考えや文化を発信できる資質を培う配置構成である。</p>

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語 (英語) 】

書名 項目	ONE WORLD (教育出版)
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領に おける教科の目 標とのかかわり	○基礎的・基本的な知識・技能を培う段階から、相手の意見を聞き自分の意見を英語で言えるようになる段階まで、4技能の統合的・総合的な活動を盛り込んでいる。 ○各Part、各種Tips活動等ごとに、言語活動と到達目標を関連付けて提示している。基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、さらに発展的な課題に取り組みせ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しようとする内容となっている。 ○異文化や日本の伝統文化を尊重し、生命・環境・福祉・平和・人権などについて考えさせる題材、また外国語で生徒が発信しうる内容の題材を多く取り上げ、言語や文化に対する興味や理解が深まるように配慮された題材となっている。
特 色	<p data-bbox="233 678 405 1077">内 容</p> <p data-bbox="233 1077 405 1451">資 料</p> <p data-bbox="233 1451 405 1883">表 記・ 表 現</p> <p data-bbox="233 1883 405 2056">総 括</p> <p data-bbox="405 678 1422 1451"><基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫> ○1年生のLesson3より4つのPartによる構成になっており、それぞれの始めには目標が明示されている。各PartのActivityで言語活動に取り組み、語彙の充実を目的とした置き換え練習ができるようになっている。各Lessonの最後には振り返りのTask活動があり、繰り返し言語活動に取り組み、基本内容の定着と発展的な活動を指導するようになっている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○3LessonごとのProjectでは、それまでのLessonや活動などで学習した基礎的・基本的な知識・技能を異なる文脈や場面で使わせることによって生徒自身が考えた内容を文章にまとめたり、発表するといった活動を通して、4技能の統合的、総合的な運用ができるよう配慮されている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○「辞書についていっしょに学ぼう!」のページが設けられ、発達段階に即した辞書の使い方が示されている。またLessonの最後の「英語のしくみ」で、文の構造や文法事項の説明があり、自分で学習、復習できる。Time for Word等では、興味関心を引きつつ表現の助けとなる語句などをさらに補足紹介もされている。また、各学年最後にはCan-Do自己チェックリストが設けられ、自己評価ができることによって、より課題を明確にして学習が進められるよう配慮がされている。 <外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○各LessonのHopではListen、Speak、Writeを、StepではReadを設定し、「聞く」「話す」「書く」の活動を配置し、木本文の定着を図れるようになっている。また、各Lessonの最後のJump、まとめとしてProject、Tipsを設け、4技能を活用させる活動を取り入れている。</p> <p data-bbox="405 1451 1422 1675">○1年は学校生活に関する単語、2年は場面をいくつか区切った日常英会話、3年は我が国の文化を英語で紹介した内容と言った、各学年とも身の回りのことから世界へと発展的な表現に挑戦しやすいようになっている。本文は外国の文芸作品・音楽・各国の文化なども取り上げられている。また、別冊Essentialsでは、教科書で学んだ語句・文法表現などをさらに活用し、内容の定着を図る為に構成されている。 ○1年で各国の名所、2、3年で本文関連資料が写真で紹介されている。</p> <p data-bbox="405 1675 1422 1883">○1年のLesson6まではブロック体、それ以降は活字体が使われているが、手紙は手書き字体が使われている。 ○1年のLesson8以降で文字が小さくなり、行間も狭くなる。また、8以降本文の量が増えてくる。2年からは文字がさらに小さくなる。行間も狭くなり、情報量も増えている。</p> <p data-bbox="405 1883 1422 2056">○それぞれのProjectまでの3つのLessonで学んだ基礎的・基本的な知識や技能を言語活動で活用する構成になっている。各PartにActivityや、Lessonの最後にTaskという言語活動や課題を提示し、言語材料の定着を図ると同時に、それを統合的・総合的に活用するよう工夫されていて、4技能バランス良く身につけられるように構成されている。</p>

(別紙様式)

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目(教科等)【 外国語 (英語) 】

項 目	書 名	
教育基本法、学校教育法の下 の学習指導要領に おける教科の目 標とのかかわり	COLUMBUS 21 (光村図書) ○新出文型の習得において、聞く、読む、話す、書くの4技能を総合的に、またスムーズステップを踏ませることで新出文型を無理なく習得させようとしている。 ○本文では会話形態を比較的多く取り入れており、実生活にもすぐに使える表現が多い。また読み物の題材や文章構成は生徒が自分のことを発信することを考慮されている。 ○「日本文化」「福祉」「科学技術」「環境」「情報社会」「国際理解」などの題材を発達段階に応じて配置し、我が国及び他国の文化を尊重する態度を養おうとしている。また、それらを中学生の視点で描くことで身近に感じさせ、理解を深め易くしている。	
特 内 容	<基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫> ○各 Unit に平均3つの新出文型を配置し、それらを習得できたかを Unit 後にある You can do it!で確認できるようになっている。新出文型の習得では、「聞く」→「ドリル」→「話す」→「書く」のステップを基本としており、スムーズに習得ができるようになっている。また、随所に語句の知識を補充するコーナーを設け、生徒の学習の助けとしている。 <思考力、判断力、表現力等を育成する工夫> ○各 Unit 本文の最後に「Read & Think」という質問があり、本文内容をより深く考えられる機会を設けている。読み物教材「Let's Read」では、内容を振り返ってまとめる工夫がなされている。また、毎学期1、2回の「Skit Time」では電話や買い物など日常的な場面が用意され、対話練習を積むことで表現力を育成しようとしている。 <主体的に学習に取り組む態度を養う工夫> ○各 Unit の扉ページには、その Unit での目標が「～ができる」という表現で書かれており、生徒の学習意欲を高め、積極的な態度を伸ばそうとしている。「Your Coach」では、各学年の学習活動を補助するために、辞書の使い方、長文の読み取り方の工夫、英文の作り方などが紹介され、自主学習の助けとなっている。 <外国語を通じて、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を育成する工夫> ○表紙見返しページに、「～ができる」といった言葉を写真とともに掲載し、生徒に外国語を活用できるようになりたいという意欲を抱かせようとしている。また、年数回用意されている「Go for It!」では、それまで学んだ4技能を統合的に用いて自分の考えを話したり書いたりする活動が配置され、コミュニケーション能力を育成しようとしている。各セクションは見開き2ページで展開されているが、会話を扱う Unit では本文は左側(文型よりも先)に配置されており、会話内の表現の積極的な活用を促している。	
	色 資 料	○「こんなときどう言うの?」と題した会話表現集が全学年に用意されており、目的に応じた表現をすぐに探すことができる。 ○「英語のしくみ」で、文型の成り立ちや応用についてイラストつきで説明されている。また「音声のまとめ」では、文字の発音の特徴を発音記号や例語を用いて説明している。 ○使用されている写真やイラストの色彩が鮮やかで興味・関心を高めようとしている。
	表 記 ・ 表 現	○1年では年間を通してブロック体が使用されている。2、3年生は活字体が基本となり、学習が進むにつれ文字が小さくなり情報量が増えている。 ○行間は1年生から3年生まで変化がなく、学年が上がり長い文章を読む際にも読み取りやすくする配慮がなされている。
総 括	○各 Unit 内で新出文型の習得のために4技能の活動を系統立てて行い、また各 Unit 後のまとめとしてさらに4技能を活用する構成となっている。1年から3年生まで同じ登場人物を配し、彼らが様々な経験をしながら成長する様子を追うことができる。会話の内容で使われている言語材料は、文型や語法の習得順にこだわらず自然で実践的なものを多く取り入れている。	